

第10回総合計画策定審議会議事録

日時：平成26年11月28日午後 1 時30分

場所：伊予市生涯研修センター「さざなみ館」第1研修室

出席者：青野光委員、井川一郎委員、今井健三委員、大森幸子委員、奥村やよい委員、笹木篤委員、重松安晴委員、田頭孝志委員、橘慶子委員、玉井彰委員、西村道子委員、橋本千春委員、松本良太会長、向井桂委員、山崎由紀子委員

欠席者：武智英一委員、武智英明委員

事務局（坪内・小笠原・岡井）

傍聴者：0 人

1 開会

2 総合計画策定支援事業者紹介

（会長）

総合計画策定について、今年度後半及び来年度に、会議の運営や資料作成を支援してもらう事業者が決定したので、事業者の自己紹介を行う。

（業者）

ランドブレイン株式会社、広島事務所長の八木である。今回事業支援をさせていただくこととなった。あと私とともに担当させていただく石村と三木である。

簡単に会社紹介を行う。我々はまちづくり全般のコンサルタントをさせていただいている。本社は東京にあり、広島に事務所を構えている。愛媛県下でも様々な自治体の仕事を手伝わせていただいております、総合計画では以前新居浜市で策定のお手伝いをした。

伊予市では、過去に住宅マスタープランの策定や市営住宅の長寿命化計画でお手伝いをさせてもらっている。そのほか県内自治体の住宅計画、都市計画などでお手伝いさせてもらっている。

あと協力していただく方として、愛知学泉大学の伊藤先生がおり、市民ワークショップ等、市民参加のお手伝いをしていただきながら、今回の業務に当たりたいと思っている。

簡単であるが、以上である。

3 議事

(1) 総合計画策定に向けたスケジュールについて

(業者)

配布しているA3資料1、実施スケジュール平成26年度詳細(案)に基づいて説明する。

26年度中には、おおむね将来ビジョンの策定をまとめていくスケジュールになっており、次年度(27年度)中に総合計画全体の策定を行い、最終的にまとめをするという大枠のプランになっている。

26年度については、まず「時代の潮流と課題」ということで、現況の資料やこれまで行ったアンケートなどを踏まえ、伊予市にどのような課題があるかこの11月から12月にかけて整理する作業をする。

2点目には「理念と将来像」とあるとおり、伊予市の将来の都市像や基本的なまちづくりの基本理念、それらを導いていくための人口の方向性などを整理し、同様に12月中に一通りたたきの案を作る流れになっている。

この後、「土地利用の構想」や「政策の大綱」といったものを1～3月に整理していく流れになっている。

市民参画としては、「◆市民等の意向聴取」という項目がある。こちらに5種類の手法を挙げている。さまざまな手法を取りながら、今回の総合計画策定に生かしていく形で進めさせていただく。

その1つ目、【講演会&イヨ・カフェ】を来週、12月7日に実施することとしている。詳細は後ほど説明するが、100人から150人の方に集まっていただき、将来の伊予市の方向性を話し合ってもらい入口と考えている。それを踏まえて、「職員研修ワークショップ」及び「各種団体ヒアリング」を2月中に実施し、内容を将来像に反映させるという流れになっている。

総合計画の審議会としては、11月中旬としているものを本日11月28日、第10回審議会として開催している。12月の中旬には第11回の審議会を開く予定である。そこでは、アンケート分析やワークショップの結果について報告させていただくこととしている。

26年度は以上のような流れで進めていく。

次年度の総合計画策定の予定としては、おおむね4月から8月までに全体的な体系の整理、それぞれの施策ごとの達成目標や指標、そしてその結果を踏まえた形で、全体計画の素案をまとめたいと思っている。まとめていく過程の中で、地区別の市民ワークショップを何回か開催する予定としているので、そちらは後ほど詳細を説明する。

8月までにまとめた案については、市民討議会を開催し、多くの方に集ってもらった中でご意見をいただきたいと考えている。市民討議会で出された意見については審議会で調整し、おおむね12月くらいには計画案をまとめる予定としている。

スケジュールとしては、以上のような形で進めさせていただきたいと思う。

(会長)

説明について、何か意見なり質問はないだろうか。

(委員)

26年度のスケジュールで、①について整理されるということだろうと思うのだが、②理念と将来像については、提案いただけるという話だろうか。

(業者)

1番目の「時代の潮流と課題」を整理した上で、伊予市からいろいろな課題等を踏まえた形での方向性としてたたき台の案を出す。それを皆さんのご意見によりたたいていただき、実際の素案に作り上げていくという形を考えている。

(委員)

そうすると、12月の審議会以案が出され、そこで我々が議論し、12月中にまとめるというスケジュールなのか。

(業者)

作業的には12月中にまとめ、1月の審議会においてたたいていただく。1月に全部ではなく、2月、3月を通じて検討していただく形になろうかと思う。

(委員)

今質問したことは、ある意味一番大切な部分である。最終的な結論部分にもなると思う。そうすると、12月中に出していただいたものをベースに1月以降議論をしながら結論に向けて進めると理解してよろしいか。

(業者)

おっしゃるとおりである。1月から3月まで皆さんに最終的な方向性をまとめていただきたいと考えている。

(委員)

よろしいか。今までの流れ、方向性というか、市民が直接総合計画の作成に関与するという方法を生かせばいいなとずっと話し合いをしてきた。その中で、ワークショップだけでなく、ワールド・カフェとか市民討議会とか提案されていると思う。

これまでの総合計画では、どこかの業者かシンクタンク、また役所などが骨子を作って提案する。そのたたき台に対して審議会が議論をして、その一部が

取り込まれるという形式的なやり方が多かった。それではまずいということをやっと話をしてきた。かといって審議会委員だけでは部分的な議論の足し算になってしまうので、骨格の形成ができないだろうということだったと思う。

このタイムテーブルには、どういうまとめ方をするかというあらすじがあると思う、作り方のコンセプトのようなものが。その辺を先に説明いただければ、このスケジュールでうまくいくとか、問題あるとか意見が言えると思う。先にタイムテーブルではなく、市民の意見をどう取り込むとか、審議会の位置付けをどうするかとか、まちのコンセプトはどう作っていくのかとか、どう想定されているのか説明してほしい。

(業者)

今ご指摘いただいたように、多分我々から何か案を作って皆さんにたたいてもらうというイメージを持っていると思う。市民参加の方法については後ほど説明するが、その前に、今度ワールド・カフェの際に、いろんな市民の方に参加してもらい、キャッチフレーズや材料を出してもらおうと思っている。それに対して、我々からこれでいこうというのではなく、皆さんからこういう意見が出たので、こういう方向が考えられるのではないかというたたき台の骨子を提案できると思う。

実際に検討していただくのは審議会の場合だと考えているので、1つの案に対して、ある程度大枠の方向性は示すが、基本的には皆さんの中で決めていけるような進め方ができればと考えている。

(事務局)

市としても、総合計画策定審議会が当然総合計画策定の中心であるのは、今までと変わらない。最終的にこの審議会から市長に答申したものが総合計画として認められるという形になるので、さまざまな手法は取るものの、結果についてはその都度必ず策定審議会に上げて、その結果を全て反映させるのではなく、審議会の皆さんの意見を参考に取捨選択しながらまとめていく形になる。

確かに前回の（第1次総合計画策定）審議会においては、市が文章を全部作り、どちらかと言えば文字のチェックになっていたところが多かった。市民参画の手法としても、市民アンケートを行っただけである。そういう手法だけではいけないということで、市民アンケートも当然参考にするが、さまざまな手法を取り入れながら、また皆さんのいただいた意見をできるだけ反映させながら作り上げることとしている。あくまでも中心は審議会の皆さんであり、その点についてはご理解をいただけたらと思う。

(委員)

スケジュールを教えていただいたが、今委員もほかの会に参加して、ロゴやキャッチコピーを作ったり、文化ホールや新庁舎のワークショップに参加したりしている。それらと重複するというのはロスというかもったいない気がする。ファシリテーターの伊藤先生にも指導してもらっている。それらの結果も吸い上げれば、今までの経緯が無駄にならないと思うのだが、いかがだろうか。

(事務局)

おっしゃるとおり、伊予市は今市民参画を積極的に取り入れているところである。以前に庁舎建設に当たってのワークショップを開いており、現在は図書館・文化ホールの設計、そして運営の部分において、それぞれワークショップを立ち上げている。また、シティブランド確立事業についても別途市民ワークショップを立ち上げている。確かに総合計画とかぶる部分も多いとは思っているが、それぞれの事業はそれぞれの目的に向かって市民の意見を伺っている。その基本的な目的は、どうしても総合計画における伊予市の将来像を語るというところから離れていく部分がある。確かに委員の皆さまには重複している方もたくさんおいでるので、ご負担にはなと思うが、それぞれのワークショップの抱えている目的や目指すべき目標が少し違っているということで、ご理解いただきたいと思う。

(委員)

これからイメージされている総合計画づくりの全体像を一通りお話ししていただいてから質問した方がよい。単にスケジュールだけでは分かりにくい。

(委員)

私も十分分かっていないので教えていただきたい。この間期日前投票を兼ねて図書館・文化ホールのワークショップがあったのでのぞいてみた。参加するのが初めてで、入札もまだ済んでないと思っていた。私はペーパー上の計画ではなく、実際にペーパーには出てない音響効果とか資材とか、器具の品質もピンからキリまであるので、実際のものを見て、使った人の意見を聞いて造った方がいいのではないかと考えていたのだが、聞いてみると既に入札も済んでいるようである。もしいろいろな意見が出た場合に、補正予算を組んでも意見をくみ取ってもらえるのかどうかと思った。金額が決まっていれば、どこかを膨らませるならどこかをへこまさないといけな。その点教えていただきたい。本日の会議には関係ないとは思いますが、伊予市の将来計画は5、6年ではなく、10年20年30年のスパンで考えていけば、今のところに（ぐんちゅう）保育所を造ることはなかったと思う。もう少し長い目で検討いただき、ほかの市町村か

から見学に来るような施設になるようにお願いしたい。

(事務局)

ただ今の質問について。決まっているというのは、図書館・文化ホールの施設の設計業者が決まっているということである。おっしゃられるような音響や資材をどうするかは、今後話し合いの中で決めていくことになっている。ただしいくらでもお金をかけるわけにはいかないので、全体の大まかな金額については計画時に設定している。当然ものによっては費用の増大もある程度は否めないところはあるかもしれないが、かけるところにはかける、かけないところにはかけないということで、全体計画としてはある程度の枠に収まる形で造ろうということで検討している。

したがって、実際の建物の入札については、全ての設計が終わり、設計業者が入ることによって詳細な部分について実際どれぐらいかかるか分かった後に、施工業者や納入業者、空調設備や音響効果に関する業者が決まるということである。そこはまだ決まっていない。あくまで設計を担っていただく設計業者が決まっている段階なので、中身そのものはただ今の協議をそのまま続けていただくということでご理解いただきたい。

(委員)

よく分かった。ただ私が心配するのは、今後はこういう会をしているから問題ないと思うのだが、新しい施設を見るとやはり問題がある。小学校の体育館にしても、あんな体育館を造っているのは伊予市だけである。職員がはしごを登ってハッチを上げて屋上へ上がり、サビを集めてバケツで下へ下ろすとなれば、施設の維持管理が大変である。そんな体育館を3つも造っているのは伊予市だけである。後々の管理の面も考えてほしい。伊予市の体育館にしても、立派なマークを作って自慢そうに言われていたけれど、肝心要の音響効果はゼロである。私がしょっちゅう使っている坊っちゃん球場の体育館（武道館）には柔道や県道の練習場があるが、全部壁面は吸音ボードを貼っている。特に武道場は広いフロアをしょっちゅう使えるよう、畳は電動で出てくるようにしている。松前の文化ホールでも松山市の方が料金を払って自由に使わせており、会議の時には椅子が電動で出てくるようになっている。松山市の福祉センターも同様である。それが伊予市の集会所を見ると、日頃は全然フロアは使われていない。その辺りも新しいシステムを考えていただければと思う。後からできるほど良いものができるので、おそらく立派なものができると思うが、どうぞ立派なものをお願いする。

(会長)

市民参加の手法をお話ししてもらった上で意見交換の方が良いという意見であった。それでは市民参加の手法も併せて説明いただくこととする。

（２）市民参加の手法について

（業者）

資料２、伊予市総合計画策定における市民参加の手法について説明する。

全体の総合計画、将来ビジョン等の計画を策定していく全体のイメージとして、市民参加は一つの手段でありながら、かなり重要な手法だと考えている。いろんな地域の方、いろんな年代の方とかにできるだけ参加いただいて、その方々の意見を集約して審議会で議論して策定するというスタンスで考えている。

資料の最初に、市民参加の手法についてこれまでどういった課題があったかを書いている。伊予市でもワークショップはいろいろされていると思う。ワークショップにより、自由な参加とか熟議というものが全国的にも実現していると考えている。ただ問題として指摘されているのが、参加者に偏りがあるということである。そういう意味では、今回の総合計画策定に当たり、この審議会や市民アンケートに加え、幅広い地域、年代など多様な方に参加いただくことにより、新しい風を吹き込んでいきたいと考えている。いろんな段階でたくさんの人に参加していただくこととしており、特に市民参加だけでなく職員にも参加いただき、一緒に検討できる場を作りたいと考えている。

次に伊予市ならではの多段階方式の提案として、３つの手法を考えている。ワールド・カフェとワークショップ、市民討議会である。具体的な内容は資料の２ページ目に書いてある。先ほどのスケジュールでも説明したとおり、12月7日に市民参加のもと開催するキックオフシンポジウムにおいて、講演会とワールド・カフェを実施する。講演会では講師として別府大学の篠藤先生を予定している。この先生には市民参加のまちづくりや新しい総合計画について、市民の皆さんと協議するという意図の講演をいただきたいと考えている。参加者については、審議会の皆さんはもちろん、市内で活躍されている団体の方や、中高生といった若い方も参加いただくよう準備を進めている。講演会の後に、ワールド・カフェという新しい手法を取り入れ、参加者みんなで議論する場を設けたいと考えている。

次に職員研修ワークショップについて説明する。これは来年度以降、市民に具体的なテーマ別に検討していただくための職員研修及び来年度以降検討するテーマのプログラムを検討していくことを考えている。それを踏まえ27年度の

テーマ別市民ワークショップには、市職員も参加して議論してもらうよう考えている。

平成27年度については、今申しあげたテーマ別市民ワークショップを3回検討している。このテーマについては、職員研修で決めるということもあるが、これまでの審議会においても、重要な課題については既に多くの意見をいただいている。例えば人口減少の課題であるとか、防災とか災害の課題、中心市街地や周辺地域の課題、そういうご意見も含めてテーマを設定したいと考えている。

平成27年度の最後には市民討議会という手法を用い、無作為に抽出した市民の方に参加してもらい、重点的な戦略を選び出すなど、最後の重点プロジェクトの設定に生かしていくような方法を取っていきたいと考えている。

平成28年度以降、計画策定以降にはなるけれど、先の市民討議会を継続することで、今後も多くの市民に伊予市のまちづくりに関わっていただける機会を設けていければという提案をさせていただいている。

市民参加は一つの手法であり、例えば12月の講演会、ワールド・カフェ等でもいただいた意見については、将来ビジョンのキャッチフレーズの材料とし、それをもとに審議会で検討していただく。テーマ別のワークショップについても、基本計画を作る段階でテーマごとの課題や取組みについて検討いただき、それを審議会に持ち寄って最終的な素案作成に取り組んでいただく。市民討議会も同様に、重点プロジェクトについて意見をいただいた後に、審議会で何を重点化していくか検討していただくなど、それぞれの段階で将来ビジョンとか基本計画に反映していけるプログラムを組んでいる。

3ページ以降には、それぞれの具体的なやり方を掲載している。講演会とワールド・カフェについては、前半に講演会、後半にイヨ・カフェを行う予定で、ワールド・カフェという形式で席を回りながら意見交換をする場を持ちたいと思っている。そのテーマの一つとして、「今後自分が住み続けたい最高の伊予市を実現するためにはどうすればいいか」といった内容を予定している。そこで出てきたキーワードを、1月以降の審議会等で将来ビジョンの材料として検討いただく形を取りたい。職員研修ワークショップについては、職員の研修も含めたコミュニケーション技術やテーマ別ワークショップのプログラムに係るテーマについて検討いただくよう考えている。

6、7ページについては、来年度以降の実施内容となるので、テーマや進め方については、今年度の検討内容、皆さんの意見を踏まえて検討したいと考えている。

8 ページに継続的な市民討議会について書いている。愛知県豊山町で実際に行っている事例であり、総合計画を策定した後に毎年町民討議会を実施し、その年に合ったテーマについて住民の皆さんみんなで考える場を設けている。そのようなことも今後検討している。

(会長)

全体構想の説明を頂いた。何か意見なり質問はないだろうか。

(委員)

何かかたいな。委員の皆さんは今の説明聞いていてどんな印象をお持ちだろうか。おかしい説明ではないのだが、一番心配するのは、これが全部きれいにいけばよいのだが、ワークショップで問題になるのは参加者が少ないことである。150人は簡単に集まらないと思う。呼びかけて集まるわけでもないし、無作為抽出の場合はさらに比率が低くなる。その辺りの集め方の工夫をどうするかという問題。それから1回1回が楽しくないと次から来なくなる。役所用語をばらまいたらみんな嫌がって逃げてしまう。子どもでも分かるような簡単な日常語で話さないといけないし笑いも取らないといけない。そういう明るさで言うと、業者の皆さんがやや暗い感じがするのが心配になった。

だから、業者さんにできないことは外部のほかの人間も引っ張ってくるとか、何か道具を使うとか、いろんな形で我々も協力して効果が上がることをしていかなければいけないと思う。そういう意味では、役所内部の職員研修も含めて大変な作業である。その勝算がどこまであるのか分からないけれど、特にワークショップでどうやって人を集めるのか、どうやって人を引きつけるのか、その辺のアイデアがあればお話いただきたい。それから豊山町では、どういうやり方をしようまくいったとか、どこが失敗したとか、併せてお話いただければと思う。

(業者)

最初の審議会なので少し緊張をしており、申しわけない。徐々に慣れていくと思うので、ご理解いただきたい。

まず、ワークショップの参加者に関してどういった方をどれくらい集めるのかというのは、議論する内容によってすごく重要なことだと考えている。今はいろんな団体や中学生、高校生も含め、市からいろいろ声掛けしていただいている。100から150とは言っているものの、何とか100集めていただくよう、ご足労いただいている。

来年度のテーマ別ワークショップは、テーマごとに3回ワークショップをするので、その地域や団体で活躍されている方などに声掛けしたいと考えてい

る。その方に限らず、自由参加として公募も含めて集めたいと考えている。

市民討議会はいろいろなところでやっており、まず参加しませんかという案内を市民無作為抽出で配る。その中ではわかりました、参加を希望する方に参加いただくよう考えているのだが、全国的な傾向で言うと、その返ってくる割合が5%から8%となっている。したがって、ある程度の人数を集めるためには、それなりの無作為抽出を行えば、近い人数を集めることはできるものと考えている。

もう一点、1回1回のワークショップは、やはり楽しく、皆さんが意見も言って充実感があるものであるべきである。それを言っただけで終わるのではなく、どう反映していくかということも含め、計画全体の中で組み立てていきたいと思う。ワークショップの運営については、現在文化ホールの方でもファシリテーターをいただいている愛知学泉大学の伊藤先生にお願いし、我々はそれをサポートするという形で進めたいと考えている。

(委員)

今ワークショップの関係で伊藤先生の話が出た。私は文化ホールのワークショップに出ているのだが、個人的に言うと、あの方の物言いは上から目線である。この中にも4、5人参加されている方がおり、70人おいでた中で、文化ホールについて本来なら5つ6つ案が出てくるのかと思ったら2つしか出てこなかった。その2つで決めてくださいと言われた。私一人が両方ともだめだと言った。2つ出してきてどちらかを決めてくださいというワークショップをやることに、正直偏見を持った。それで本当に大学の教授なのか。上から目線と取ってしまう。そういう方が今回来られるというのは、いかななものかと感じている。

もう一つ、計画の中に職員研修ワークショップと各種団体ヒアリングというのが出ていた。私は市の職員にもっと勉強していただきたい。我々も当然勉強してきたと思って公募でさせていただいたのだが、職員研修はどのような研修をしているかという、ただやっているというだけだろう。そこも具体的にこれくらいはやってほしいという目安も言っていただければ幸せである。団体も10団から聞き取りをしていかななものか。もっと伊予市のために意見が述べられる方を呼んでいただければ、もっとうまくいくのではないかと感じている。

(委員)

今の意見は意見として伺うけれど、伊藤先生が図書館・文化ホールに関してファシリテーターをやっているということは、むしろ総合計画を見直す上で、関連性を把握されて進行していただけるという点では、私は良いところがある

と思っている。今後もう少し交流を深めて、いろいろ意見も言っていただいて調整したらいいのではないかと思います。

それから、団体の話については、確かに団体が絡むと、利益の主張が前面に出て大局を見失うおそれが十二分にあると思う。今回の説明内容を全部やって、本当に日程的に合うのか疑問ではある。優先順位を付けるなら市民討議会と職員研修だと思う。

職員研修の至上命題は、行政と市民の協働だと思う。市民と協働する行政とはどんなものか、どんな行政マンであるべきかということに重きを置いて、研修をしていただきたい。特に伊予市は縦割り行政で、タコつぼに入ったような形で日々業務を遂行しており、そこからなかなか出られない。先般の新川市営団地の事件でも、伊予警察署と伊予市の情報交換は年1回らしい。それも大事かもしれないが、個々の職員が一步前へ出る資質というか、火中のクリを拾うくらいの気迫がないとだめだ。あの事件は情報がなかったから起きた事件ではなく、情報があったから起きた事件である。怖くて手が出せなかったというのが本当のところだろう。やはり行政が立ちすくむのではなく、市民との協働という意識があれば、地域の方とも相談し、協働して問題解決という方向に進めたと思う。今の問題解決の方向は逆行している気がする。今後行革が進むわけだから、行革が進めば進むほど職員は業務が多忙になる。そこを住民が協働して支える。そのときに住民とどれだけ手を結べるかという発想が自分たちの職務を軽減することにもなるのだから、そういう方向で物事を考えていけるような方向で研修が進めばいいと思う。そういう研修なら私もオブザーバーで見たい気がする。

市民討議会は非常にありがたい提案である。私もこれまで何度も主張させていただいたが、三鷹市の事例を見ると、裁判員制度型の無作為抽出で謝金を出している。お金が欲しいからではなく、謝金があることによって責任感が発生し、会議の性格上もっと公的な舞台に参加しているという自覚ができると思う。今市が主催するワークショップでは、そのうち行けたら行く、今度飲み会があるから欠席するという話になってしまいがちである。市民討議会をある程度格付けするためには、予算の問題もあるけれど、謝金は必要だと思う。

28年度以降もやっていただける計画というのは非常にありがたい。総合計画の中で市民討議会を正式な機関として設置していただくとかなり有効なものになると思っている。

(委員)

資料の8ページに愛知県豊山町という継続的市民討議会議の先進地が出てい

る。人口1万5,000人の自治体を参考にするのであれば、私は「住民自治されだに」の住民自治の話を聞いたり、自主防災の話を聞いたりするとよいと思う。先日の白馬村、震度6で死人が1人も出なかったというのは、どこに誰が寝ていて、どこに誰がいて、中学生でも人助けをしたという、そういう危機感が必要だ。将来ずっと住みたいとか、子どもをずっと伊予市で育てたい、このまちで子どもを産み育てたいとか、そのために住民満足度を充実させていくのがこの会議のあり方だと思う。アンケートについても、結局満足度に関することだろう。果たしてこのやり方が今の方法に沿っているのかどうか。ワークショップも結構だが、ふたを開けるとメンバーはいつも一緒である。私もでしゃばりみたいに思われるのが嫌で、全部の会に出るのはいかななものかと思うくらいいろんな会から声が掛かる。この会でも皆さん様々な会からお声が掛かっていると思うが、先ほどのとおり「住民自治されだに」とか自主防災のお話とかももっと加味して考えていただければと思う。

(事務局)

今の意見に対し、「住民自治されだに」とかいろいろ活躍されている団体あるいは個人の意見も当然聞いて、先のまちづくりに生かしていくということは当然必要だと思う。その点については住民自治を担当している総務企画課とも協議してまた織り込んでいきたいと思う。

最後の28年度以降の継続的な市民討議会議についてだけ説明させていただきたい。実は今までの審議会でも、資料として市民満足度調査を提出していたのだが、これは2年ごとに総合計画の進捗度を測る意味で調査しているもので、その代わりが市民討議会議と考えている。無作為に抽出した方に案内をして、参加していただいた方はアンケート同様、伊予市の縮図ということで、総合計画のそれぞれの事業の検証をお手伝いいただくという形で、市民討議会議を今後継続して開催できればと考えている。これだけがまちづくりの手法ということではなく、総合計画の検証という意味で入れさせていただいているということとで理解していただきたい。当然この手法に限るものではなく、これ以外にも様々な方面で活躍されている団体等については、別の形で参画していただき、意見や知恵を聞かせていただきたいと思う。

また、28年度については、予算の確保ができていないので、ここでは理想ということで入れており、あくまでも27年度まではこのようなスケジュールで行わせていただきたい。もう一点、各種団体のヒアリングについて意見があった。この部分については、市からあえて織り込んでもらえないかという提案をしたものである。実は今年合併検証ということで県と一緒にヒアリング調査を

行ったのだが、総合計画の策定に当たっても同じような形を取り入れてもらえないだろうかと県から申し出があり、各種団体のヒアリングを提案として入れさせていただいている。

基本的には職員研修ワークショップ、市民ワークショップ、市民討議会議に主流を置きたいと思っている。ただそういう事情により、団体ヒアリングを織り込んでいくことについて理解してほしい。

(委員)

先ほどの意見に賛成である。原案を作るときに、おそらく職員の方で検討されると思うので、職員研修をもっとすれば、もっと能率が上がり費用もかからずスムーズに進むのではないかなと思う。私は前回も参加しているのだが、優秀な職員がおいでたので、順々に原稿を書いていただいてそれを検討した。今回の半分の時間で済んだと思う。

決まったとしても100年も続くものではない。その場限りということではないけれど、例えば文化センターの原案を作るなら、職員が近隣の市町でいい、そういうところに研修に行き、実際に使っている方の声を聞く。専門家だから一番良く分かる。

私も現職の時、役所から学校改築の原案の提示があったが全部壊した。体育館も伊予市にはいいものがないので、他市の良い体育館を見ておいてから、業者にこういうものを造ってくれといった。戦時中は体育館ではなく、講堂といていた。つまり勉強する所だった。体育館は体育をする所である。私は体育もできるうえに講堂として心の修養もできる広い場所にしないといけないという意見で、結果的にその学校改築には7年かかった。

私は意見を出すとき、いかんいかんと言うだけではなく、意見を持った上で出す。いかんいかんと言うだけでは本当に無責任だと思う。そういう意味でもよく検討されて、職員に研修する場を与え、ご指導をよろしくお願いします。

(委員)

総合計画って誰のものだろうと考えると、やはり職員のものではなく地域住民のものである。先ほど来皆さんがワークショップに来る人が固定化されていると言われていたが、住民のための計画を作るというのであれば、例えば呼び込むだけでなく、我々や職員が出向くことはできないか。例えば中山とか双海の人とか、夜間のワークショップになかなか出て来られない人も多いので、ちょっとしたグループの所にこちらから出て行って、大きいところでは声も出せないような小さな声を聞いていくことができないかなと思う。

(会長)

地区別市民ワークショップはどんなやり方をお考えだろうか。

(業者)

来年度には、地区別に回るもの及びテーマ別にやるものという両方を考えている。地区別では、今指摘いただいたように、いつもこの周辺でやるのではなく、合併した周辺地域でも開催するよう考えている。それを含めてどういうやり方がいいか、今までの意見も踏まえて検討を進めていきたいと思う。

(会長)

職員のことで今までにもたくさんご意見、ご批判いただいたわけであるが、共に勉強しながら作っていくということで取り組んでもらっていると思う。一足飛びに伊予市をどんどん前に向いて引っ張っていこうという形には簡単にはならないと思うが、こういう機会を捉えて職員も一緒になって頑張っていこうという芽を作っていく方法がいいかと思う。

(委員)

私はこういう支援をいただくことになってありがたいと思う。いろんなやり方があるので、どれが正しいかどうかではなく、一番大事なのは、計画を作っても計画倒れでは困るわけで、最終的には人を動かさなければならない。地域住民の方に理解してもらって、計画に近い方向に沿った実践をどのようにしていくか、ある程度基本に置きながら計画を作っていくといけない。重点課題とか年度課題とか、今までの協議会では事務局に大変苦勞をかけてやってきた。このままでは整理整頓がつかず、最終的にはもう文書で目標設定して課題を作り、それに対する配備をし、理論武装して伊予市の基本計画だとなりそうな気がしたのだが、今回企業の方にリードしてもらえる。実際にはやってみないと分からないが、一番大事なのは資料にもあるとおり、年齢を問わず、本当に10年、20年先の伊予市の将来を考えて参加してくれる小さい子あるいはある程度実践・経験をされているプロの方など、いろんな人の意見を聞くことが大事である。そういう意見も吸い上がってくると思うので、審議会がキャッチボールしながら前へ進めるべきである。

それを進め、実践していくためには、国でもなく県でもなく、やはり市民の身近にいる市職員が大事である。市役所にも専門分野、担当分野があるので、職員研修を通してリーダー的な存在ができるような絞込みをしていただきたい。計画ができて実践ができないといけないので、職員研修では、ものの考え方や伊予市全体や各地域をどうするのかという、常日頃生活や業務をする中で頭の中でイメージできるものが一番重要になってくる。そこは業者の方で大所高所から職員を巻き込んでいただきたい。もちろん職員は多岐の分野にわた

るいろんな業務を抱えており、急にお願いしてもいけないだろうが、調整についてよろしくお願いしたい。市長も大変かもしれないが、とにかく職員にこういう場に参加してもらおうと実践の段階でずいぶん変わってくると思う。

(委員)

今計画について皆さんいろいろを言われたのだが、最初に持った印象は、これで間に合うのか、できるのかということである。12月7日に早速あるけれど、それをもって中旬に策定となっている。7日の結果がきちっとまとめられて審議に出す。その審議を今年中に終らせる。ワークショップ、イヨ・カフェが終ると次の段階にすぐ入るようになっている。徐々にと言っているが、その辺りが一番不安である。もう時間がないという形になって今までのやり方に流れていくという不安がある。

それから、支援業者の会社概要が分からない。担当は伊予市をどのくらいご存知なのかという不安もある。伊予市や中山、双海の地区の特性とか地域性を勉強されたり歩かれたりして見ていただくのが、今後進めていく上で重要になってくるのではないかと思う。

(業者)

皆さんがおっしゃるとおりだと思う。今一通りのやり方をご提示させていただいた。職員参画にしても、職員に何がご自身の地域の課題と考えて、それをテーマとしてしっかり取り上げていただくというプログラムを組んでいるが、さらに皆さんのお考えを引き出す方法について、意見をいただきながら少しずつ修正していきたいと考えている。その辺りは随時やっていきたいと思う。

我々の会社のことはなかなか見えない点もあるだろうと思う。もし必要であれば、今までの業績について示すこともできる。伊予市でいくと住宅関係の業務だけになるが、中山や双海の各地域を見て回り、その地域の住宅がどうなっているか確認させていただいている。それで全部見ているかという話もあるので、今回改めてしっかり地域を見させていただき、皆さんの意見が十分理解できるように一生懸命勉強させていただきながら進めたいと思っている。

(委員)

本当ならパワーポイントで、今までこんなことやってこういう成果があったと説明するくらい気を利かせてもらおうとよかった。

最初のスケジュールでいくと、今年中に将来像、基本理念を検討して、その後方針決定となっている。最初の段階で総合計画の枠組み、骨格がほぼ決まるというスケジュールに読める。それに対してワークショップがどういうピッチで開かれ、この枠組みにどう取り入れられていくのか。それから市民ワークシ

ョップと市民討議会とこの審議会、3つの構成がある。市民討議会は100人くらいと書いているが、かなり大人数の討議会という感想である。

ワークショップの特徴は、アンケート的ではあるが、広く市民から問題、意見を吸い上げることはできる。ただ一つの問題点に対し議論を深めていくのは無理である。20人くらいであれば話のキャッチボールでどんどん深まったり、同調したり反発したりというのができるのだが、100人規模の市民討議会となると、市議会的になってしまい、議論を深める場にはなり得ないと思う。やはり同じように意見を採集する形で取り上げるべきだと思う。

そうすると、このままではワークショップあるいは市民討議会の内容を骨格形成、基本コンセプトづくりに反映させるのはまず無理である。それを可能にするのはファシリテーターの実力になる。ある程度概念をしっかり持った人間が、子どもが「ぼつ」と言った一言に深い内容を嗅ぎ取って、それを膨らませて大きな骨格の中に入れる、あるいは話を聞いた段階で骨格を変えてしまう、そういう即興性と洞察力がないと機能しないと思う。その使い分けをどうするのか。ある程度骨格が決まってから小さな意見を拾い上げるだけのワークショップでは、そこに参加する人の消化不良、フラストレーションがたまると思う。どういう戦略を持ってやるのか、生きた言葉で話してほしい。

(業者)

スケジュールで言うと、ワークショップは来年度の5月から、市民討議会は8月という予定の中で、多分総合計画のどこにそれを反映していけるのかということだろうと思う。まず今年度はビジョン、将来目標や方針をおおむね検討していく段階になる。それに関しては12月のワールド・カフェで伊予市に住み続けるためのキーワードを出してもらう。これは次回の審議会に取りまとめ結果が報告できると思う。審議会で実際に検討していただくのは1月から3月の間で、こういうキーワードが出ている、例えばこういう分類をすればこういう方向があるのではないかと、そんな資料を出して検討をしてもらうよう考えている。来年度の4月以降は基本計画の部分となり、いろんな分野やテーマについて具体的に検討していく段階となる。そこに地区別などのワークショップが入ってくるので、結果は骨格が十分決まる前に反映できている。最後の市民討議会については、おっしゃるとおりおおむね骨格が決まっている中で、無作為に抽出した皆さんから意見を聞くという場になるので、ここでは最後の重点プロジェクト、今後推進していくために重点的に取り組むべき部分、今後のまちづくりとして意見を聞く場にしたいと考えている。そこで重点プロジェクトのどこまで中身を組み替えるか、その辺は市とも協議することにな

る。基本的にはこういった形での反映になると思う。

(委員)

そうすると、先ほど意見のあった出張ワークショップはもっと早い段階からしてもいいのかなという気がする。1月くらいからできないか。材料集めは早い段階からした方がいいのではないか。本当は基本理念や方針決定、方針検討など具体的な小さな意見を聞くことと全体コンセプトを作り上げることを同時並行にした方がいいと思う。できる範囲で早めの準備が必要だと思うのだが、そういう検討はできるのか。

(事務局)

おっしゃるとおり、全て並行してというか、市民ワークショップで得た意見も骨格、ビジョンに反映できればいいということは確かにある。予算の話になって申し訳ないのだが、今年度はこのような事業について支援してもらい、来年はこういうスケジュールで支援してもらいという予算組みの中で提案いただいております、必要なものについては予算の範囲内で許す限りお手伝いはいただくのだが、来年度予定しているワークショップの設置まではなかなか難しいところはあろうかと思う。例えば団体のヒアリングを減らしてそちらに回すとか、協議をしながら予算の範囲内で可能な支援をしてもらって、各地域がどうのご意見をもたれているか吸い上げていかなければならないと思う。そう考えると、団体ヒアリングよりワークショップを前倒しして始めた方が良かったのかもしれないが、当初の事業積み上げの中でこのようなスケジュールにしまっている。ただ110回全部やるのではなく、今の意見も踏まえ、可能な限り各地域で活動している方からも意見が聞けないかなということについて、相談しながら進めていきたいと思うので、理解いただきたい。

(委員)

今文化施設のファシリテーターをされている伊藤雅春先生は、企業サラリーマンではなく個人である。誰か面白い人がいたら、双海でも中山でもどこへでも向こうから行くと言っている。そういう柔軟な動きというのは、業者さんもいろいろ研究されていると思うので、予算がないから来年度と言わなくてもできると思う。出前型のワークショップはそんなにお金かかるものでもないの、予算という固いことを言わず、必要な情報は早目に集めるように柔軟に対応していただきたい。

(委員)

資料の2ページに、職員研修ワークショップによるプログラムデザインの作成とある。その右の欄に「50名程度の職員の参加を得てワークショップ研修を実

施します。その中から20名程度のワーキングチームを組織します」とある。全体研修とワーキングチームの研修で1日取っているのだが、この1日というのは、50人が研修を受け、その中の選抜チームがその後継続してプログラ作成を行うイメージでいいのか、もう少し具体的に教えていただきたい。

(業者)

まず午前中に全体研修ということで、50人程度の職員にコミュニケーション技術とか協働についての取り組みとか研修していただく。これは4ページにある全体研修の内容になる。その後お昼を挟み、5ページの上半分に書いているとおり20人程度のワーキングチームにより、ワークショップのプログラムを検討していくという流れになっている。このワーキングチームの20人には、市民ワークショップにも参加していただき、市民と職員で一緒に検討する場を設けられればと考えている。

(委員)

今の説明では、全部がこの1日のスケジュールで終わると理解をするのだが、その研修を終えた職員がその後関わり合っていくという具体的な担保がないように思う。50人の職員あるいは20人の選抜を含めて関わりあっていけるような仕組みになるのかどうか。この1日だけなら仕事の合間で構わないかもしれないが、行ったらそれで終了しましたとなってしまうことも考えられ、関わりを継続することが担保されるのか心配である。その担保がないと、実地研修でもう忘れまして、で終わってしまう感じがする。やはり行政と市民との協働を大きく掲げるのならば、継続して関わっていける担保が欲しいのだが、その点いかがだろうか。

(業者)

詳細は市とまだ調整中であるが、市民ワークショップは次年度実施を提案している。そこにこの職員研修で実際にプログラムを検討していただいた職員に入ってもらい、市民と一緒に一つのテーマについて検討してもらおう。そこで協働という取り組みは担保できると考えている。

(委員)

今言われたことであるが、ワークショップへ職員は一般市民と交じって参加するとなっているが、ワークショップは普通の日にするのか、土日にするのか。私の感じでは、仕事中心にするのかなと思っているのだが、50人も80人も出ていくと、失礼な言い方であるが市役所は仕事にならない。

そうではなく、日曜、祭日に意欲のある職員に出てもらい、私は休みの日に出てきてこれだけのことをしている、市の行政にもこのようなことを申したい

という職員を是非作っていただくような人選をしていただきたい。私ももし当たれば行きたいと思うのだが、おそらく当たらないだろうと思う。それで本当の意見が出てくるのかなと危惧している。新しい伊予市政が始まってから何ら変わらない、市の職員も変わらない、市民も変わらない、当然市会議員も変わらない。1人や2人が言っても変わらない。

市長、議員を決めるのは市民であり、その方々が最終的には責任を持って市を動かしている。その中で市職員は必死に働いてくれていると自負している。しかし市民から見れば市議会議員は何をしているのかと言われる。市職員にはあまり言わないようだが、そういう場には市民の声は届きにくい。しかし市の職員が動けば、伊予市は絶対変わっていくと思う。先日も地域の運動会に行ったり、市民の老人スポーツ大会のお手伝いもさせていただいた。そんな中市民運動会に市職員が出てきているかという、1割も来ていない。そういう方が本当に市民のために働いている市の職員だろうか。私は疑問を持っている。だから休みの日に出てくれるようなメンバーをまず見付ける。それがだめなら課長連中に若いメンバーを出してくれと言わないと、職員に来い来いと言っても用事があるとか言って絶対来ないと思う。そういう意味で人選についてしっかり考えてほしいと思う。

(委員)

私は職員研修で絞込みをしてもらえると理解している。いろんな部署があるので、そこは当然事務局が背番号制を取ると思う。というのも、職員はそれぞれの専門性があるので、全部はできない。だから専門性のところに背番号を付けていただき、3年なり5年なり、ある程度自分の専門性のあるところに配置してある程度成果が実践できるところまでやってほしい。先ほどから意見が出ているように、キーワードは職員である。もちろん市民の意識レベルも上げないといけないし、参画のレベルも上げないといけない。これから総合計画の中でも職員も一緒にレベルアップしながら、負荷をかけキャッチボールをしながら、総合計画ができるころには職員にも浸透して、即実践できるような体制になってもらいたい。今からでも実践はしてもらわないといけないのだが。問題意識さえ持っていれば、伊予市は変わるし、変わっていかないとはいけない。

背番号制が良い悪いという議論はあるけれど、やはり行政も専門性を生かさないといけない。農林事務所が事務屋だけではだめである。やはり技術屋がいて、技術が分かった上で行政が分かる人がいないと、地域の行政は進まない。産業振興はできない。全ての分野でそれが言える。

そういう意味で、やはり研修の中である程度職員の絞込みをもらい、当

然本人の自主性が一番大事なので、その辺キャッチボールをしながら背番号を付けてもらう。最終決定するのは人事を持っている管理職、最終は市長なので、その辺り職員に負荷がかからないシステムを作っていただきたい。

(事務局)

職員研修ワークショップについては今後業者と協議する。どのような職員に出てもらうかについては、テーマ別で選ぶのか、意欲で選ぶのか、3月には人事異動もあるので、どういう方向が良いのか相談しながら考えていきたい。先ほどから各委員がおっしゃるとおり、職員の意識が低いのは確かであり、12月7日の講演会についても各部署に案内をしたのだが、4人5人出してくれる課もあれば、1人も出せないという課もある。そこは管理職の考え方もあろうかと思う。そういうことがないよう、総合計画が市にとって大事なんだということを職員、特に管理職に理解してもらえよう、我々も今まで以上に精力的に活動したいと思う。本日いただいたご意見は早速それぞれの部署に報告して、市民はこのような目で見ているということを理解してもらう。

(委員)

スケジュールの一番下、27年12月に意見公募と入っているのだが、これはどういう形になるのか。

(事務局)

意見公募というのは、市に意見公募手続制度、パブリックコメントという仕組みがあり、計画を作るときには必ず市民の皆さんに20日以上公表して意見をいただく期間を設けなければならないということになっている。素案がまとまれば、議会にかける前にまず市民の皆さんに広報で周知し、ホームページや市役所、地域事務所において素案を確認できるようにして、意見をいただくこととなっている。

(会長)

実施スケジュール及び手法については、以上でよろしいか。

午後3時20分休憩

午後3時35分再開

4 その他

(会長)

再開する。委員から気象現象についての話があったと思う。説明いただければと思う。

(委員)

以前に伊予市と砥部町にて気象に関する話をする機会があり、そのときにいろいろ資料を作った。その中で行政につながるような項目を2つほど取り上げている。前半ではこれから冬の時期にかけて突風とか「ひょう」とか竜巻が起るということについて、後半では夏季の大雨について、こういう天気図のときは要注意だということを詳細に書いている。あと天気予報の見方も少し書いている。特に前半は、これから1月くらいまで、海水温が高い伊予灘に起こりやすい災害について書いている。今年は冷夏だったので伊予灘の海水温は上がっておらず、竜巻は起こらないとは思いますが、12月前半には近い現象が起こるかもしれない。防災に関係されている方もいると思うので、こういう天気図のときは危ないということを伝えていただくと幸いである。

(会長)

貴重な資料を作っていただいた。その他として事務局から何かあればお願いします。

(事務局)

報告、相談を行う前に本日の話し合いでも度々出てきた講演会及びワールド・カフェについて改めて案内させてもらう。翌週の日曜日(12月7日)午後1時からウェルピア伊予において1時間程度の講演、2時間程度のワールド・カフェを予定している。100人を目標に、伊予農高や各中学校、PTAにも参加をお願いしている。できるだけたくさんの方にお越しいただきたいと考えている。総合計画策定審議会の委員の皆さんにおかれては、率先して参加いただくようお願いする。欠席される場合の連絡は必要ない。また、数名であれば知り合いの方に参加してもらっても結構である。

続いて3点の報告、相談である。1点目、市民アンケート調査について、本日皆さんに簡易版の資料を配布している。実際は200ページほどあるが、今回は11ページ、それぞれの項目の回答のみ提示している。このアンケート調査は、市民2,000名に郵送し、9月19日まで20日間で回答返信いただいた。回答数は815通、回答率40.75%である。これは過去4回の市民満足度調査の平均回答率42.05%を若干下回っているものの、昨年度の満足度調査40.33%とほぼ同じ結果になっている。詳細は次回の審議会において報告させていただく。このような数字、結果であったということを確認していただけたらと思う。

2点目、大変配付が遅くなってしまったが、第9回の審議会の議事録を配布している。確認いただき、何かあれば事務局へ連絡いただきたい。

3点目、次回の審議会日程である。本来の予定では12月12日(金)であるが、御存じのとおり衆議院議員の総選挙が14日執行であり、期日前投票事務や

投票所設営作業等が立て込んでおり開催が難しい。翌週19日（金）は議会の最終日でありこの日も難しい。よければ18日（木）で調整させてもらいたい。

（会長）

アンケートは次回検討をするようである。議事録について、何か抜けているところがあれば、連絡をお願いしたいと思う。

（委員）

18日の会場はどこか。

（事務局）

この会場は埋まっているので、中央公民館もしくは総合保健福祉センターで調整したい。早目に日程を押さえて、場所が分かりやすいよう地図を添えて案内文書を送付する。

（会長）

次回の審議会の日程は、12月18日午後1時半ということで構わないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

（会長）

場所については追って連絡をする。

（委員）

よろしいか。冒頭に時間を取っていただき、佐礼谷を見ていただいた。私の個人的な関心事であるのだが、あの山には名前が付いてないし、認識もされていない。中山・佐礼谷の方に申し上げてもぴんと来ないようだ。北斗七星やオリオン座の形を教わっていないと、夜空を見てもばらばらと星が散漫に輝いているだけである。そういう枠組みができていないと認識できない。あるいは先入観なり自分の既存の概念に該当していないものは見えないという部分があるのではないか。

私は地域支援と言うけれど、その地域の方には全く認識されていない。よその人に言われて、相当すばらしいことというのがよくあるようである。それも含め、あの山すら見えないということを皆さんに確認いただくとありがたいなということで時間を取っていただいた。

（会長）

今言われた山は、公園になっており、松森城の城跡が残っている。昔のとりでがあり、その周りは堀というか、ずっと掘った跡が残っている。名前は私もよく分からない。

（委員）

国土地理院の地図を見ても山の名前がない。あそこが佐礼谷だというランド

マークになり得るので、すごく貴重な山だと私は思っている。松山からもはっきり見えるので、あの山を大事にしてみたいと思う。

(会長)

あそこへ上がる際、伊予灘から松山、伊予市がきれいに見える。昔は高速道路の廃土を利用してサッカー・ラグビー場が取れる施設を造ろうかという構想があったところである。

(委員)

多分名前がないことはないと思う。明治の初めから絶えず市町村合併を繰り返しているので、その間に公式上の名前が消されているということがあちこちにあるはずである。探せばあるいは地元の方が習慣的に呼んでいる呼び名というのがあるかもしれない。

(会長)

我々は松森城址、松森城という通称で呼んでいる。

(委員)

中山の歴史があるので、また調べてみる。何か載っているかもしれない。

(委員)

まだ調べてはいないが、載っているという話もある。テラノヤマと載っているとか。現状では公式な名称がないので残念に思う。

(会長)

ほかにないようであれば以上で締めたいと思う。

午後 3 時47分閉会